

日進塾

VOL.100

発行 日進塾

2016年3月

勉強三月

ごまかせない!

この一学年を素直な気持ちで振り返り反省することで君は大きく飛躍できる。

うたがわせない!

大きな声を挨拶し笑顔をなくさなければ君は今日も一日がんばれる。

ながされない!

君の望む道を歩むには、生きていけばまわりの騒音に迷い悩むことはない。

あきらめない!

君の目標を達成するために最後まで強い気持ちで絶対に諦めない。

四つもない!

君のじの春のために...

当教室はまず君たち一人一人の話をしかりと聞くことからすべての学習指導を開始します。

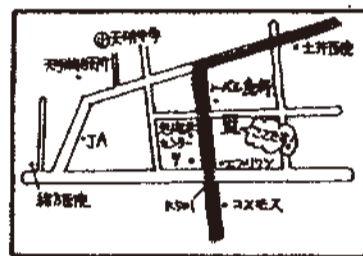


スポーツの試合だけでなく、私たちは毎日多くのことと闘っています。私たちは自分でもよく自覚しないうちに勝ったり負けたりしているのかもしれませんが、君が君の目標を達成するために努力することは、君が君自身と闘うことでもあります。誰かに勝つのではなく君が君自身に勝つ時、君の目標は達成されるのです。

誰にとっても勝つことは望ましく素晴らしいことです。しかし常に勝ち続ける人はとても少数です。多くの人は勝つことより負けることの方がずっと多いはずで。

来月は四月、進級や進学で新しい環境に直面する君に私が贈りたい言葉は「勝て」ではなく「負けるな」です。

諦めることが負けることです。諦めなければ君に負けはありません。諦めなければ君の道は必ず開かれます。



熊本市南区銭塘町2136-8

日進塾

096(223)3151

HP <http://www.nishinjuku.com/>



あなたの興味をできる限り幅広くせよ!



ラッセルの『幸福論』

不幸の原因は、一部は社会制度の中に、一部は個人の心理の中にある。

真っ先になすべきことは、幸福は望ましいものだということを納得することである。

ねたみによって、われとわが身をも不幸にしている。自分の持っているものから喜びを引き出すかわりに、他人が持っているものから苦しみを引き出し出している。

人間の幸福を増やしたいと思う人はだれでも、賢美の念を増やし、ねたみを減らしたいと願わなければならぬ。

不幸に見舞われたときによく耐えるためには、幸福なときに、ある程度広い興味を養っておくのが賢明である。

幸福の秘訣は、こういうことだ。あなたの興味をできるかぎり幅広くせよ。そして、あなたの興味を惹く人や物に対する反応を敵意あるものではなく、できるかぎり友好的なものにせよ。

人間、関心を寄せるものが多ければ多いほど、ますます幸福になるチャンスが多くなる。

人生に対して熱意を持っていない人は、持っている人よりも有利な立場にある。不愉快な経験ですら、彼らにはそれなりに役立つ。

人間は、自分の情熱と興味が内ではなく外へ向けられているかぎり、幸福をつかめるはずである。

愛情の受け手になることは、幸福の強い原因である。しかし、愛情を要求する人は、愛情を与えられる人ではない。愛情を受ける人は、大まかに言えば、愛情を与える人である。

「幸福論」(ラッセル/訳・安藤貞雄/岩波文庫)より

ラッセル(1872年5月18日〜1970年2月2日)

バートランド・アーサー・ウィリアム・ラッセル

イギリスの哲学者・論理学者・数学者。

今日「三大幸福論」と言えば、ヘルティの『幸福論』(1891年)、アランの『幸福論』(1925年)、ラッセルの『幸福論』(1930年)による三つの幸福論を指す。

